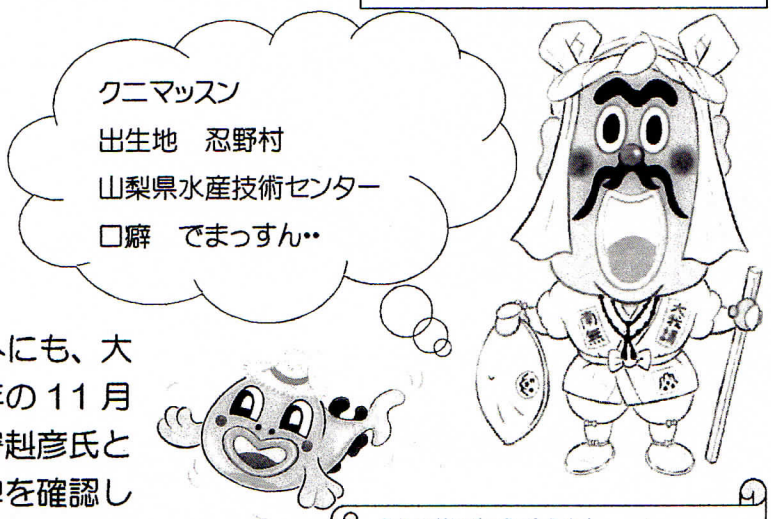
こうざえもんつうしん　平成27年2月8日
講左衛門通信　第38号

発行　天台宗忍草山東円寺
〒401－0511
南都留郡忍野村忍草38
☎　0555－84－4114



『今日は、大我講の石碑について話をしようと思っておるんじゃが、クニマッスンは、大我講の石碑の多くは、どこにあるか知っておるかのう？』

『市川三郷町（旧市川大門）に、大我講の石碑は多くあるでまっすん。』

『確かにそうなんじゃが、市川三郷町以外にも、大我講の石碑が残されておるんじゃよ。昨年の11月13日、大寄友右衛門の子孫である、大寄赳彦氏とふるさと案内人の日西氏と、大我講の石碑を確認して来たんじゃよ。赳彦氏は、友右衛門が建立した浅間神社を長い間、探していたんじゃよ。数ヵ月前、身延町の学芸員の深沢氏から、富士川CC内にある浅間神社の調査報告書が届いたんじゃよ。その調査報告書を、赳彦氏にも見ていただいたんじゃ。長い間探していた浅間神社だったこともあって、とても興奮されていたぞ。早速、富士川CCの支配人に連絡を取ってくれてな、11月13日に尋ねることができたんじゃ。東円寺の古文書（大我講の名簿）にある、市川大門とほぼ同じくらいに多くの講中がいた西島村の有志が、その浅間神社の境内に石碑を建てていたんじゃよ。縁とは不思議であることを話してきたが、富士川CCの支配人は、この浅間神社をお守りしている宮司さんと、昨年、富士山に登ったというんじゃよ。今でも富士講が残っていることを話してくれたんじゃ。どのようにして富士登山しているのかを聞きたかったんじゃが、時間がなくて聞くことは出来なかったんじゃ。』

富士大我講左衛門（ふじのだいがこうざえもん）　年齢不詳
職業　大我講の先達（せんだつ）
（先達とは案内責任者）

『それは、残念だったでまっすん。けれども、また一つ大我講の事が解明されるかもしれないと思うとワクワクするでまっすん。また、富士川に行くでまっすん？』

『時間を作って訪ねる予定でいるぞ。さて、最近とても気になっていることがあるんじゃよ。平成27年2月1日の忍野村議会だよりの中に、富士山世界文化遺産についての質疑があったんじゃ。景観保存について答弁されていたんじゃが、イコモスからの課題である、巡礼路の特定、来訪者管理戦略等、また、富士山の噴火に対する危機管理対策等に対しての質疑応答がないという事はどういうことなんじゃろうか？また、大我講について調査はしているんじゃろうか？富士山文化遺産の構成資産である忍野八海の文化的価値はなんであるのかのう？疑問ばかりが残るんじゃ。しかし、誰かが何かをしてくれることを待つばかりではいかん。わしらも頑張らなくてはな。さて、11月13日には、中央市豊富地区に残されている大我講の石碑も確認してきたんじゃ。山梨郷土研究会から発行されてる「甲斐」第130号、2013年6月号に紹介されているものなんじゃが、興味深い石碑であったぞ。』

『次回は、それを紹介してくれるでまっすん？楽しみでまっすん。』

※訂正　講左衛門通信第37号の谷村仲没年は嘉永元年ではなく万延元年の誤りです。

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定